



綿畑を視察し、中村勝治市長(右)に「きれいな綿」と伯州綿を評価する近藤健一取締役

境港視察

「伯州綿は希少価値」

大阪の紡績員 栽培や製品化助言
会社役員

有機栽培綿(オーガニックコットン)の製品化に力を入れている大正紡績(大阪府阪南市)の近藤健一取締役が19日、境港市の伯州綿栽培を視察し、中村勝治市長らに「伯州綿の膨らみと糸の強さは独特。希少価値のある綿として売り出すべきだ」と勧めた。

同社から、近藤氏を初めて招いた。畑を見た近藤氏は「環境が良く、栽培地がかたまっていく」と評価。繊維を長くするため剪定し、中村勝治市長らに「せんてい」と間引きの大切さを説き、「栽培面積が3割は必要」と助言した。事前の市長との会話でも「ベビー用品や靴下、タオルなどがいい。洋綿で3千円の製品が、5千〜6千円で価格設定できる」と提案した。

中村市長は「取り組みが前に開けていく思いがした」と、礼を述べた。

取材ノート

「5000人で移行する時代の到来を予測も1千人でも飯し」綿を植えたのはタイムを食えれば、こり。地球がそれを求めての町にとって良「とも言い切った。同内外で知られているブランドに糸を供給する紡績会社は、新たな産業振興への期待を膨らませた。

先細る石油資源や薬品を使う化繊から、天然素材に採算を考えると、綿花一

9/22.10.20
山中

つ当たりの繊維量や全体生